

ありがとう スペンサー・カーティス

3年間にわたり、外国語指導助手（ALT）を務めてきたスペンサーさんとカーティスさんが離任することになりました。

2人は小中学校で英語を指導しながら、イベントに積極的に参加したり、地域に溶け込んだりして、町民との交流を大切にしていました。

母国アメリカへスペンサーさんは7月31日に帰国。カーティスさんは8月24日に出発します。

両ALTから町民の皆さんにあてたメッセージを紹介합니다。



また会いましょう

アメリカから遠く離れた美しい長島に住むことができ、とても素晴らしい経験でした。

私はここに来たばかりのときは、長島について何も知りませんでした。しかし、3年間たった今では、長島は2番目のふるさとだと思っています。この場所のすべてが好きで、特に長島の皆さんが大好きです。

町内どこへ行ってもフレンドリーな人たちが笑顔で接してくれます。私は絶対に日本一ラッキーなALTです。子どもたちや職場の同僚、長島の皆さんのおかげで、たくさんいい思い出ができました。この思い出は、いつまでもいつまでも私の心の中に残っています。

実は、長島の美しい自然やおいしい島美人、魚、気持ちの良い温泉から離れたくないです。また長島一周駅伝に参加したり、文化祭で歌を歌ったり、ジャンボかぼちゃを作ったりしたいです。私の長島での生活はとても幸せでした。

日本で英語を教えるのは高校のときからの夢でした。夢をかなえてくれてありがとう。私はこれから先、なりたい自分になるために長島を離れて勉強しなければなりません。まだたくさん夢があるので、これから将来に向けて頑張ります。

一旦、長島を離れるけど、すぐに帰って来ます。また会いましょう。そのときはよろしく願います。皆さんに会えるのをとても楽しみにしています。

3年間はあっという間でした。本当にお世話になりました。いつまでも私の大好きな長島を忘れません。

Thank you and see you again,
Spencer Reid Huddleston



行ってきます

3年前、私は大学を卒業して、飛行機に乗り、この長島に来ました。その時はまだ22歳でした。アメリカでは、学校生活、そして映画館のアルバイトをした経験しかありませんでした。日本語がへたで、皆さんのごちゃまぜの長島弁が、ゆっとならなかつた。私は本当に恥ずかしかったです。でも、そんなうぶな私を長島は温かく迎え、仲間に入れてくれました。

3年後、私は25歳になりました。日本語能力試験2級に合格して、たまに皆さんの長島弁を聞き取れるようにもなりました。ヒゲを生やし、ギターとランニングもはじめました。長島の魅力にほれました。海や山、段々畑、そして焼酎もそうです。子どもたちは期待以上にすばらしかったです。その子どもたちも、この短い3年間でたくさんつくった友達も、いつまでも私の心の中に残ります。

そして、いよいよアメリカに帰る日がやってきました。どんなにここにいたいと望んでも、どうしてもアメリカに帰らなければなりません。これから、何の仕事をするか決まっていますが、どんな仕事でも頑張ります。

この長島に3年間住むことができたことは、本当に幸せでした。長島のことを絶対に忘れません。私のことも忘れないでください。必ず長島に戻ってきます。そのときは家族も連れてきて、自分の子どもに私の第2のふるさと長島を紹介します。そして、みなさんに家族を紹介することが楽しみです。

「さよなら」は言いません。ありがとうございました。大変お世話になりました。

じゃあ、行ってきます！

カーティス ヴァルー